

世界防災フォーラム プレナリーセッション 「被災地からの経験・教訓の共有と 継承-東日本大震災を中心に-」

津波の追
昭和三陸大津波
昭和八年三月三日三時
新山神社参道入口の鳥居
により被災、津波の恐ろ
く物語り、残骸として
一部が存在する。(鳥居跡より
東側10mの位置)
現在地における津波
頭より3m上と追想を
薄らいていく津波の教
引き継ぐべく、昭和三陸
を此処に建立する。
平成二十年五月二十日

東北大学災害科学国際研究所

佐藤 翔輔

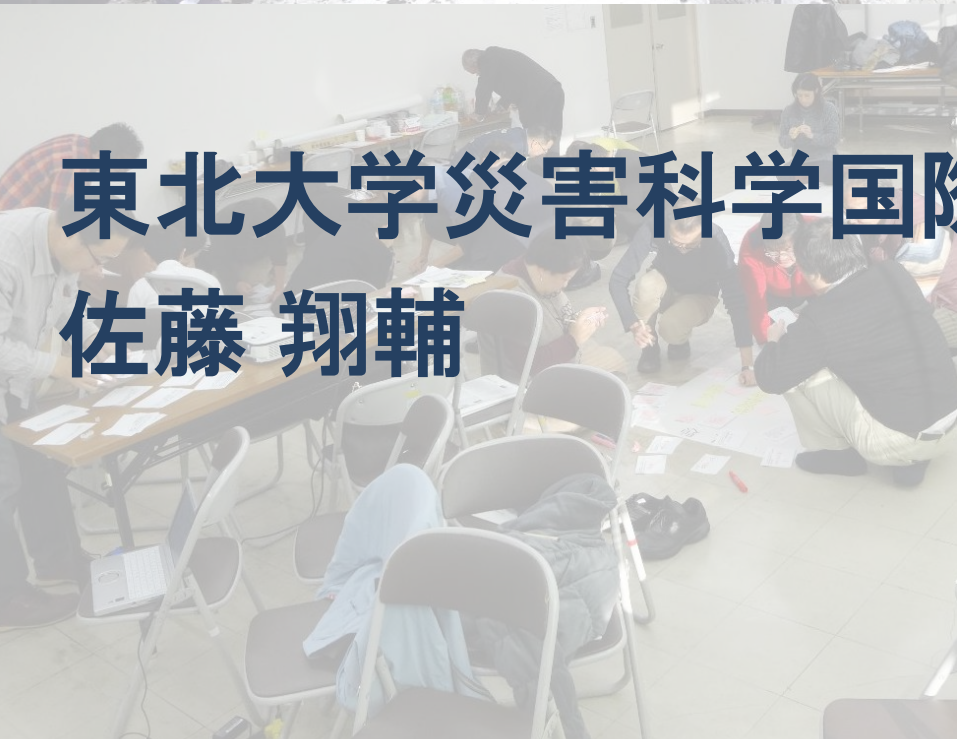
世界防災フォーラム プレナリーセッション
「被災地からの経験・教訓の共有と継承-東日本大震災を中心に-」
2017年11月26日 於 仙台国際センター会議棟2階大ホール

取り組んでいる 災害伝承に関する 研究・実践活動

津波の追憶

昭和三陸大津波
昭和八年三月三日三時十五分襲来
新山神社参道入口の鳥居が第二波
により被災、津波の恐ろしさを生々し
く物語り、残骸として此処に鳥居の
一部が存在する。(鳥居跡地はこれより
東側10mの位置)
現在地における津波遡上高は碑
頭より3m上と追想される。
薄らいていく津波の記憶を、後世に
引き継ぐべく、陸津波追憶碑
を此処に建立する。
平成二十年五月二十四日

東北大学災害科学国際研究所
佐藤 翔輔



災害伝承の減災効果の**定量的**研究

過去：
津波碑の
人的被害
軽減効果



現在：
震災学習による
感情・記憶への
の影響
(語り部等)



現在：
震災遺構の
保存・解体要因



災害伝承の**実践的**研究

行政：
検討委員会
への参画
(知見提供・
ファシリテート)



市民・NPO：
研究成果の
フィード
バック・
活動の改善



学術：
震災伝承ICT
ツールの
開発・公開

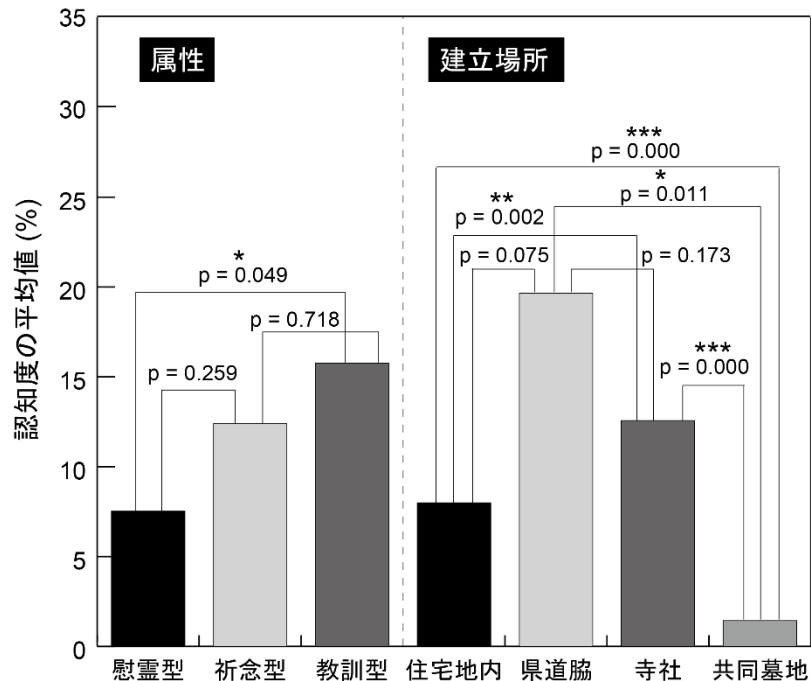
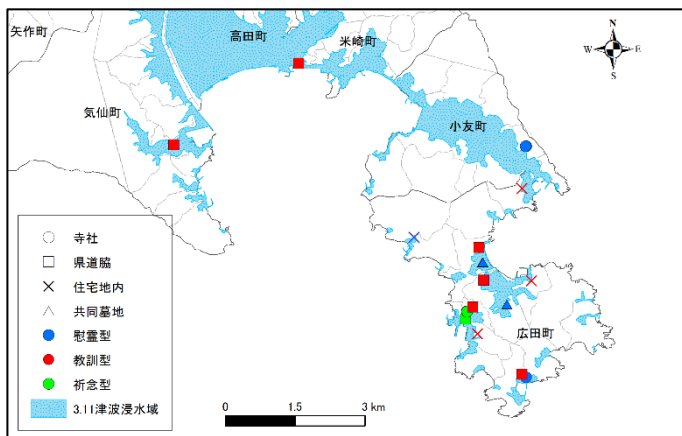


「津波伝承知メディア」

- 定義：津波被災の経験を伝承する有形・無形の媒体（佐藤ら，2014）
- 津波碑，口碑，地名，津波石，遺構，朗読，歌，絵画，儀礼



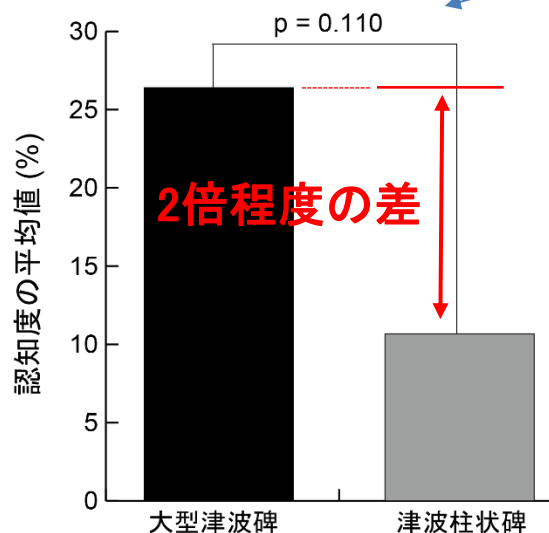
「認識される」津波碑： 陸前高田市での調査



佐藤翔輔, 平川雄太,
白幡勝美, 今村文彦
(2017): 東日本大震
災発生前における津
波碑に対する岩手県
陸前高田市の住民
の認知・認識



大型津波碑



津波柱状碑

犠牲者ゼロの地域 に着目した調査： 慰霊祭の存在

- 普代村太田名部
地区

- 昭和三陸での
100名死亡

- 洋野町八木地区

- 昭和三陸津波で
79名死亡

佐藤翔輔, 今村文彦(2017): 東日本大震災における「津波による犠牲者ゼロ」の地域を対象にした探索的調査, 地域安全学会梗概集, No. 40, pp.181-182



東日本大震災では、震災伝承は津波避難を誘引したのか(統計的検証, 陸前高田市):

	ステップワイズ法					
	B	標準誤差	Wald	有意確率	Exp(B)	
事前に						
	定数	-0.907	0.334	7.364	0.007	0.404
避難場所を決めていた(自分が)	事前避難場所決定 (自分) ダミー					
避難場所を決めていた(家族で)	事前避難場所決定 (家族) ダミー					
ハザードマップを見たことがあった	ハザードマップ認知ダミー					
防災のことを話し合っていた(家族で)	家族で防災を話し合う頻度ダミー*	0.700	0.338	4.284	0.038	2.015
防災のことを話し合っていた(近所で)	近所で防災を話し合うダミー					
自主防・婦人防火等に入っていた	防災関連組織所属ダミー					
訓練に参加していた	地域防災訓練概ね参加ダミー					
地震→津波と意識していた	地震津波リスク認知ダミー					
地域にいつか津波が来ると思った	地区津波リスク認知ダミー					
自宅が津波で浸水すると思った	自宅津波リスク認知ダミー					
昭和三陸地震津波を知っていた	昭和三陸津波認識ダミー**	0.962	0.354	7.393	0.007	2.618
明治三陸地震津波を知っていた	明治三陸津波認識ダミー					
津波碑を一つは知っていた	津波碑認知ダミー					

佐藤翔輔, 平川雄太, 新家杏奈, 今村文彦(2017):災害伝承は津波避難行動を誘引したのかー陸前高田市における質問紙調査を用いた事例分析ー

我が国の災害伝承の現状

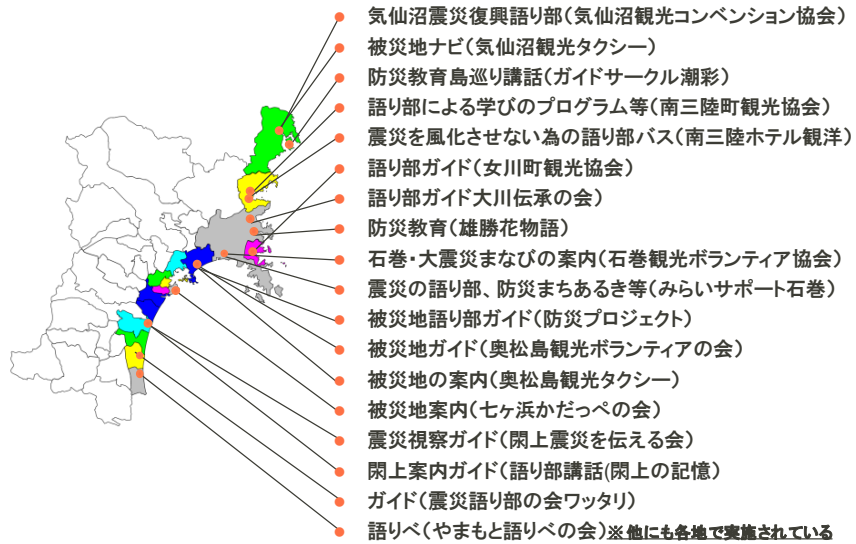


佐藤ら (2014)

<https://sites.google.com/site/saigaikk2013/saigaikiokukiroku>

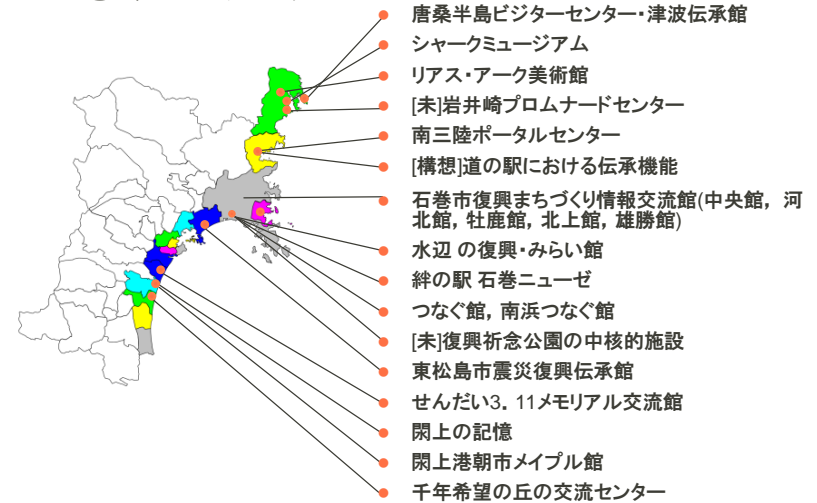
宮城県内の東日本大震災の 伝承事業の実態把握

震災学習プログラムの実施状況



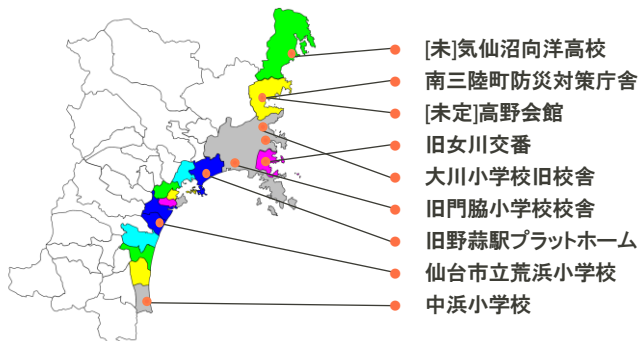
震災伝承関連施設の整備状況

① 展示施設



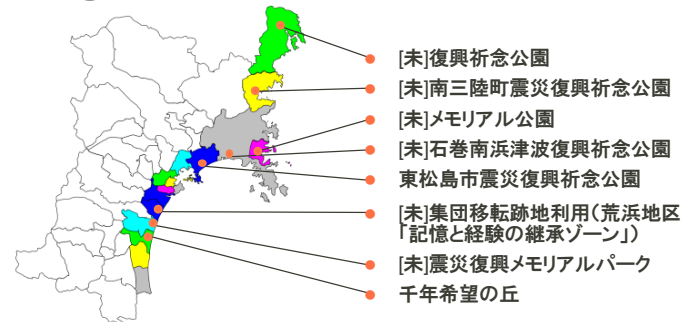
震災伝承関連施設の整備状況

② 震災遺構



震災伝承関連施設の整備状況

③ メモリアルパーク



宮城県内の震災伝承事業の現状

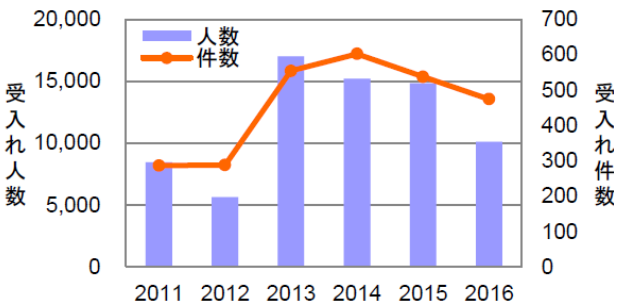


図1 気仙沼観光コンベンション協会 受入れ人数/件数

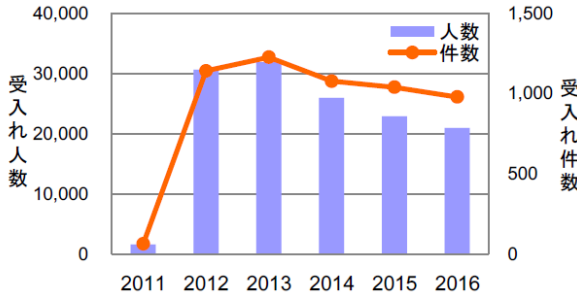


図4 石巻観光ボランティア協会とみらいサポート石巻 受入れ人数/件数の合計

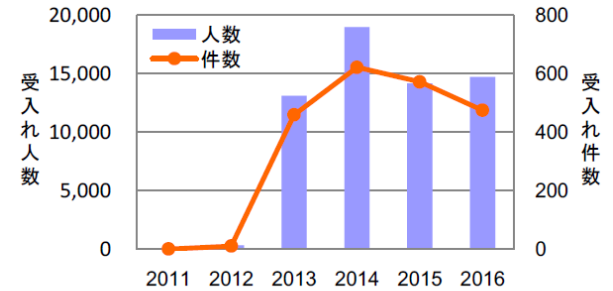


図7 閉上震災を伝える会と閉上の記憶 受入れ人数/件数の合計

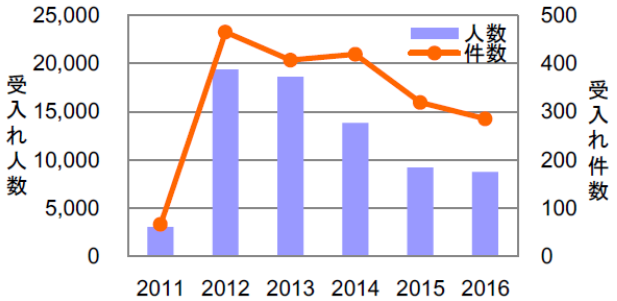


図2 ガイドサークル汐風受入れ人数/件数

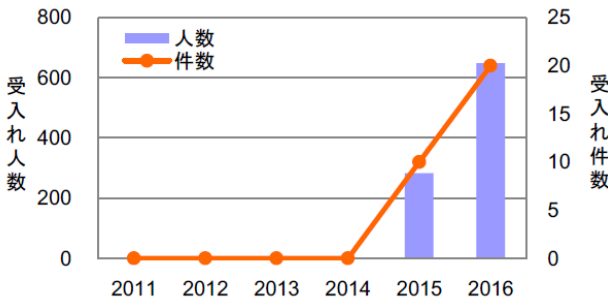


図6 セツエ浜かだつぺの会 受入れ人数/件数

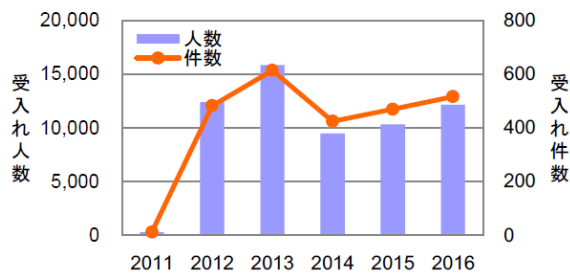


図3 女川町観光協会受入れ人数/件数

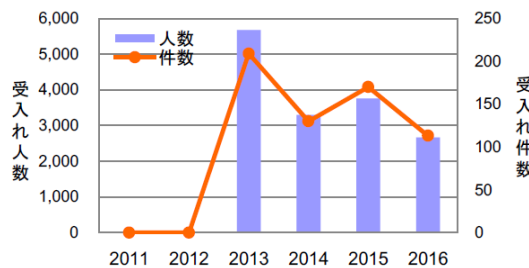


図8 震災語り部の会ワタリ 受入れ人数/件数

5つの類型

《プログラム参加数が増加もしくは横ばい傾向》

- ▶ 類型A: 観光拠点と連携して行っている震災伝承
- ▶ 類型B: 広域交通アクセスがよく周辺地域にもつなげる震災伝承

《プログラム参加数が減少傾向》

- ▶ 類型C: 域内の複数の分散型拠点で行う震災伝承
- ▶ 類型D: 域内の複数の集中型拠点で行う震災伝承

《傾向がまだつかめていない》

- ▶ 類型E: 拠点を持たない震災伝承

石巻市震災伝承検討会議 震災遺構検討会議

NHK おはよう宮城

7:46

大崎

26℃

10/0

震災の教訓 後世に
語り部が連携へ

民産学19団体・39名
市13部局

「震災学習協働事業体制づくり」コンファレンス
主催：石巻ビジターズ産業ネットワーク・震災伝承部会

震災
伝承

震災伝承計画(案)
震災遺構整備計画(案)

震災伝承検討会議＋震災遺構検討会議(2)

主催：石巻市(担当：復興政策課)，H28年度・計5回ずつ

大川
小

門脇
小

🔍 検索

フリーキーワードを入力して検索するか、下部のタグクラウドからキーワードを選択してください

登録者	対象	カテゴリ	フェーズ
佐々木宏之 丸谷浩明 富田博秋 村尾修 伊藤潔 ジェレミー・ブリッカー 久利美和 大野晋 松本行真 日野亮太 杉浦元亮 越村俊一 サッパシー・アナワット 井内加奈子 今村文彦 佐藤翔輔 千田浩一 安倍祥 栗山進一 福谷陽 細井義夫 金進英 三浦哲 中山雅晴 五十子	自治体 住民 医療機関 国 企業 研究機関 気象庁 マスコミ 政府 研究者 医療会館 土コンサル 学会 学校 消防 警察	受援計画 津波避難 災害医療 建物被害 災害情報 組織対応 被害想定 ハザード評価 健康問題 ころのケア コミュニティ 津波被害 BCP 災害伝承 耐震 観測 防災教育 高台移転 まちづくり ライフライン 仮設住宅 備蓄 原発避難	事前 応急 緊急 復旧・復興 事前、応急

「3.11からの学びデータベース」 - IRIDeSから発信する 東日本大震災の教訓空間 -

<http://311manabi.irides.tohoku.ac.jp/>

🔍 検索

場所
☑️ 宮城県石巻市 (62)

- 分類
- 津波直後 (37)
 - 津波発生 (24)
 - 地震発生時 (津波なし) (1)

🔍 検索

🔍 検索結果一覧

🗺️ 地図



「動画でふりかえる3.11」 - 東日本大震災 公開動画ファインダー -

<http://311movie.irides.tohoku.ac.jp/>

伝承が機能する 機能しない要因とは何か？

津波の追憶

昭和三陸大津波
昭和八年三月三日三時
新山神社参道入口の鳥居
により被災、津波の恐ろ
く物語り、残骸として此
の一部が存在する。(鳥居
東側10mの位置)
現在地における津波頭
頭より3m上と追想さ
薄らいていく津波の教訓
引き継ぐべく、昭和三陸大
を此処に建立する。
平成二十年五月

東北大学災害科学国際研究所
佐藤 翔輔

伝承が機能する 機能しない要因とは何か？

- 地域コミュニティにおける伝承
 - 過去の災害をふりかえる習慣の有無
 - 東日本大震災：犠牲者ゼロ地域，慰霊祭
 - 長崎大水害(1982)：山川河内地区の「念仏講まんじゅう」
 - 家：3世代2親等の限界
 - 陸前高田市での調査
- 行政における災害対応業務ノウハウの伝承
 - 宮城県OB職員を対象にしたインタビュー調査から
 - 宮城県内で起きた主な災害
 - 1978年宮城県沖地震
 - 1986年8.5水害
 - 1994年9.22水害
 - 2003年北部連続地震
 - 2008年岩手・宮城内陸地震
 - 機能しない
 - 職位・立場の問題
 - 機能する
 - 土木／財務

今後の伝承を 機能させるために 必要な視点・要素とは何か？

津波の追憶

昭和三陸大津波
昭和八年三月三日三時十五分
新山神社参道入口の鳥居が
により被災、津波の恐ろしさを生々
く物語り、残骸として此処に鳥
一部が存在する。(鳥居跡地はこ
東側10mの位置)

現在地における津波遡上高は
頭より3m上と追想される。
薄らいていく津波の教訓を、後
引き継ぐべく、昭和三陸大津波追
を此処に建立する。

平成二十年五月二十四日

東北大学災害科学国際研究所

佐藤 翔輔

今後の伝承を機能させるために 必要な視点・要素とは何か？

- 何をすれば機能するかは分かっている
- でも、その「何」は、どうやったら実現・継続できるかまでは、まだ分かっていない。
 - 地域住民：地域・家で、過去の災害を思う習慣
 - 行政：兵庫県，神戸市のパッション

機能する伝承に向けた 展望・提言

津波の追憶

昭和八陸大津波
昭和八年三月三日三時十五分襲来
新山神社参道 口の鳥居が第二波
により被り、津波の恐ろしさを生々し
く物語として此処に鳥居の
一部が存する（鳥居跡地はこれより
東側十
現在地における津波遡上高は碑
頭より 想される。
薄ら
引き継
を此
平

昭和八年三月二十四日

東北大学災害科学国際研究所
佐藤 翔輔

機能する伝承に向けた 展望・提言

- 地域コミュニティにおける伝承
 - 地域行事化：現代ではかなり難しい
 - 学校での地域教育の一貫に：学校への負荷が課題
- 行政における災害対応業務ノウハウの伝承
 - 「東の宮城」宣言